

私の工夫

「めあて」を示し、「まとめ」に結びつける

前美咲町立柵原中学校
現岡山県立津山中学校

教諭 森川 摂



1 はじめに

「岡山型学習指導のスタンダード」が平成26年に配布されて、もうすぐ2年になるうとしている。

「めあて」の提示や「考え表現する時間」の確保など自分なりに工夫していたが、いつもおろそかにしていたことがある。生徒に「本時のまとめ」を書かせることだ。授業の時間が残り少なくなってくると、時間ぎりぎりまで授業の内容を進めることを優先し、チャイムと競争するかのように板書を書くこと、あとは挨拶をして教室を出ることがほとんどであった。そこで今回は基本に戻り、生徒にまと

めを書かせるところまでを意識した授業実践を行った。

2 実践例

まず意識したことは、「まとめ」

に結びつく「めあて」の分析からである。その時間内に生徒が何を理解すれば良いのか明確になるように心がけたが、意外にこれが難しい。例えば歴史的分野に「第5編 近代の日本と世界」で「議会を中心とする民主政治の誕生」という項目がある。市民革命を学習する項目だが、教科書（日本文教出版）の学習課題には、「貴族や国王ではなく、一般の民衆が参加する民主政治は、どのようにして

生まれたのだろうか。」

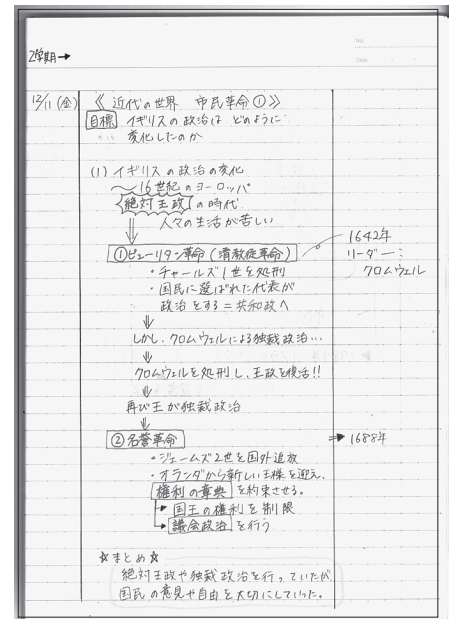
という目標が提示されている。政治形態の変化に重きを置きたいと思った私は、「近代になり、イギリスの政治はどのように変化したのか。」

という問いを「めあて」に示すことにした。

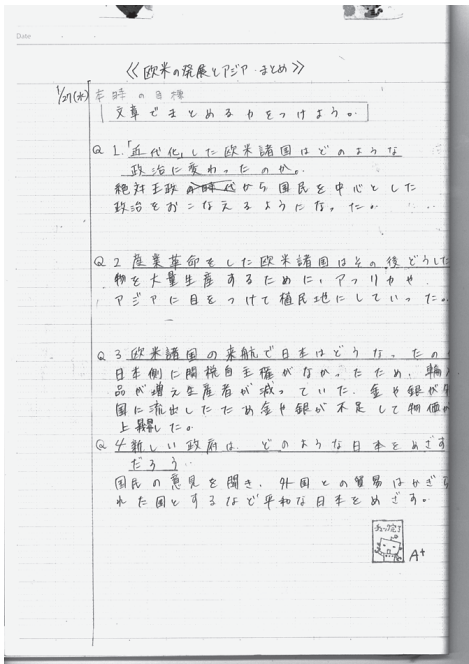
この授業では、「近代」という言葉にも着目させた。時代の呼び方が「現代に近い時代」に変わったということは何を意味するのか生徒たちに疑問を持たせ、その疑問を解決させていく形で授業を行った。市民革命によってどのような政治になっていくのかを学ぶことで、生徒は次第に「貴族や国王の政治」から「一般の民衆が参加する民主政治」に変わったことを認識する。授業の内容が終わった

ら、最後に「めあて」に対する「まとめ」をノートに記入させた。生徒がノートに記入できたなら、数名に発表させ、情報共有を行った。「王様の政治から国民の政治に変わった。」「それまでは王様が中心の政治だったが、革命によって国民中心の政治に変わった。」というまとめが発表された。イギリスから始まるこの政治変化は、日本の明治維新の改革にも大きな影響を与える。そのため、「国民を中心とする政治に変わった。」というところをしっかりと押さえられたことは、その後の授業の組み立て方としてもよかつたと思う。

江戸幕府の滅亡まで学習したあ



資料1

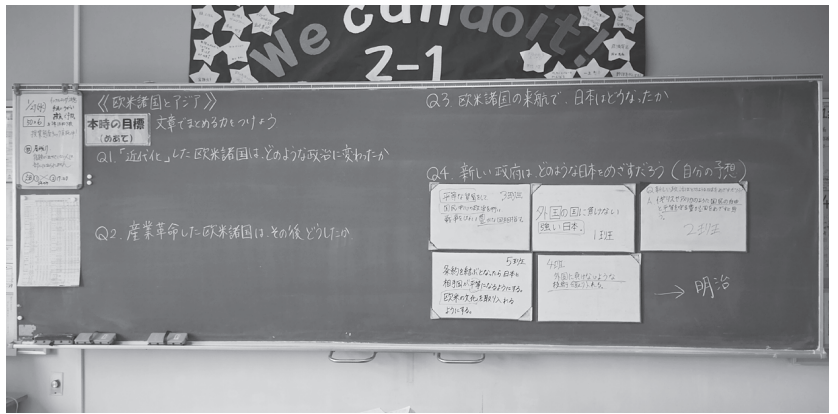


資料3

この日の授業を理解することができ、「授業で大事だったところ」が分かる。など、授業の内容が整理され、暗記や復習に役立っていることが

一方で約35%の生徒が「理解は変わらなかった」と答えている。その理由に「どうまとめたらいいか分からない」「他の人の意見を聞く機会が少なかった」という意見が出ていた。まとめの時間が確保できず、発表までいかないこともあり、自分で記述するのが難しい生徒にとっては効果があまりな

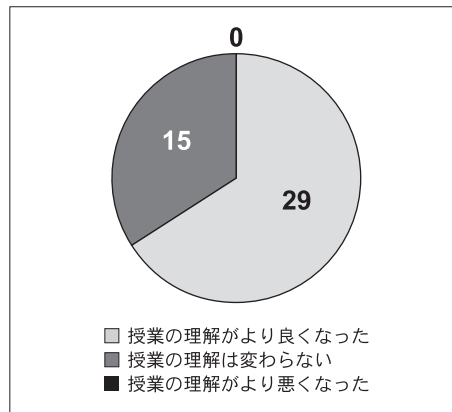
かった。今回の目的は、まとめの時間をきちんと確保することだったが、授業の時間配分などがうまくいかず、まとめの記入時間や発表時間が十分確保できていないことも多かった。今後の授業では、「まとめ」の記入と発表の時間が確保できるように、時間配分などの工夫をさらにしていく必要がある。



資料2

3 取り組みの成果と課題

と、それまでの授業のまとめも行った（資料2）（資料3）。明治の新政政府がめざす政治は、欧米諸国のような政治である。近代の最初の授業で「どのような政治に変わったのか」を意識させておいたことで、五箇条のご誓文や自由民権運動の学習に活かってくる。



資料4

4 おわりに

生徒のまとめの記述の出来によって、授業のよさが分かる。良い授業では、生徒がすぐにまとめが書けるが、悪かった授業では生徒の記入がなかなか進まないことが多かった。それぞれの授業で、生徒が「今日の授業は何が分かった」のか明確になり、教師の授業改善の材料にもなっている。課題はまだ多いが、今後も「まとめ」と「まとめ」を意識した授業を取り組んでいきたいと思う。